

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7693787号
(P7693787)

(45)発行日 令和7年6月17日(2025.6.17)

(24)登録日 令和7年6月9日(2025.6.9)

(51)国際特許分類

F I

H 0 4 N 1/32 (2006.01) H 0 4 N 1/32

H 0 4 N 1/00 (2006.01) H 0 4 N 1/00 C

請求項の数 10 (全19頁)

(21)出願番号	特願2023-217666(P2023-217666)	(73)特許権者	000001007
(22)出願日	令和5年12月25日(2023.12.25)		キャノン株式会社
(62)分割の表示	特願2022-159921(P2022-159921)		東京都大田区下丸子3丁目30番2号
	の分割	(74)代理人	100126240
原出願日	平成29年11月30日(2017.11.30)		弁理士 阿部 琢磨
(65)公開番号	特開2024-23836(P2024-23836A)	(74)代理人	100223941
(43)公開日	令和6年2月21日(2024.2.21)		弁理士 高橋 佳子
審査請求日	令和6年1月5日(2024.1.5)	(74)代理人	100159695
			弁理士 中辻 七朗
		(74)代理人	100172476
			弁理士 富田 一史
		(74)代理人	100126974
			弁理士 大朋 靖尚
		(72)発明者	▲浜▼ 幹生
			東京都大田区下丸子3丁目30番2号
			最終頁に続く

(54)【発明の名称】 情報処理システムの制御方法、プログラム、及び情報処理システム

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の宛先情報を含むグループ宛先情報を登録することが可能なアドレス帳を記憶する記憶手段と、表示手段と、を有する情報処理システムの制御方法であって、
画像データを入力し、前記画像データから宛先情報を取得する入力及び取得工程と、
前記入力及び取得工程で取得された宛先情報を編集可能な画面を前記表示手段に表示させる表示制御工程と、
前記画面に表示されている宛先情報を編集する編集工程と、
前記入力及び取得工程で取得された宛先情報または前記編集工程で編集された宛先情報を、前記記憶手段によって記憶されたアドレス帳にグループ宛先情報として登録する登録工程と、を有し、
前記表示手段にグループ宛先情報の登録画面が表示された状態で所定の指示を受け付けたことに基づいて、前記入力及び取得工程と前記表示制御工程を実行することを特徴とする情報処理システムの制御方法。

【請求項2】

前記情報処理システムは、前記入力及び取得工程において入力された画像データ内の文字情報を認識する文字認識手段をさらに有し、
前記入力及び取得工程では前記文字情報から前記宛先情報を取得することを特徴とする請求項1に記載の情報処理システムの制御方法。

【請求項3】

前記入力及び取得工程では、前記所定の指示を受け付けたことに基づいて、第 1 の原稿に対応する第 1 の画像データと、第 2 の原稿に対応する第 2 の画像データを入力することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の情報処理システムの制御方法。

【請求項 4】

前記表示制御工程では、前記入力及び取得工程で入力された画像データと、前記入力及び取得工程で取得された宛先情報と、を表示させることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の情報処理システムの制御方法。

【請求項 5】

前記表示制御工程では、前記第 1 の画像データから取得された第 1 の宛先情報を編集可能な第 1 の画面と、前記第 2 の画像データから取得された第 2 の宛先情報を編集可能な第 2 の画面と、は同時に表示させず、

10

前記第 1 の画面において、ユーザが前記第 1 の宛先情報の編集を完了したこと、または、ユーザが前記第 1 の宛先情報を編集しないこと、を確認したことに応じて前記第 2 の画面を表示させることを特徴とする請求項 3 に記載の情報処理システムの制御方法。

【請求項 6】

前記情報処理システムは、原稿上の画像を読み取り、画像データを生成する画像生成手段を更に有し、

前記所定の指示は、原稿上の画像の読み取りを開始するための指示であり、

前記入力及び取得工程では、前記画像生成手段によって生成された画像データを入力することを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか 1 項に記載の情報処理システムの制御方法。

20

【請求項 7】

前記画像生成手段は、原稿台に載置した原稿または A D F (A u t o D o c u m e n t F e e d e r) により供給された原稿を読み取り、画像データを生成することを特徴とする請求項 6 に記載の情報処理システムの制御方法。

【請求項 8】

前記情報処理システムは、前記記憶手段に記憶されたアドレス帳からグループ宛先情報を指定する指定手段と、前記指定手段によって指定されたグループ宛先情報に含まれる複数の宛先情報に基づいて送信を行う送信手段と、を更に有することを特徴とする請求項 1 乃至 7 のいずれか 1 項に記載の情報処理システムの制御方法。

【請求項 9】

30

請求項 1 乃至 8 のいずれか 1 項に記載された情報処理装置の制御方法を、コンピュータに実行させるためのプログラム。

【請求項 10】

複数の宛先情報を含むグループ宛先情報を登録することが可能なアドレス帳を記憶する記憶手段と、

表示手段と、

画像データを入力し、前記画像データから宛先情報を取得する入力及び取得手段と、

前記入力及び取得手段により取得された宛先情報を編集可能な画面を前記表示手段に表示させる表示制御手段と、

前記画面に表示されている宛先情報を編集する編集手段と、

40

前記入力及び取得手段により取得された宛先情報または前記編集手段により編集された宛先情報を、前記記憶手段によって記憶されたアドレス帳にグループ宛先情報として登録する登録手段と、を有し、

前記表示手段にグループ宛先情報の登録画面が表示された状態で所定の指示を受け付けたことに基づいて、前記入力及び取得手段による前記画像データの入力及び前記宛先情報の取得と、前記表示制御手段による前記画面の表示を実行することを特徴とする情報処理システム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

50

本発明は、情報処理システムの制御方法、プログラム、及び情報処理システムに関する。

【背景技術】

【0002】

名刺に記載されたアドレスや電話番号などを含む宛先情報を、画像読取装置（以下、MFP（Multi-Function Peripheral）と称する。）が有するアドレス帳に登録する技術が知られている。例えば、特許文献1は、原稿台に置いた名刺の画像からメールアドレスを文字認識により読み取り、メールアドレスをアドレス帳に登録する機能を持ったネットワークファクシミリ装置が開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

10

【0003】

【文献】特開平11-027313号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献1の構成においては、名刺を読み取り、1件の宛先情報をアドレス帳に登録することでアドレス帳への宛先情報の登録処理が完了している。

【0005】

そのため、複数の宛先情報を有するグループ宛先情報をアドレス帳に登録したい場合に、ユーザは、アドレス帳に登録された複数の宛先情報の中から所定の宛先情報を選択してグループ宛先情報を設定する操作を行う必要があった。

20

【0006】

本発明の情報処理システムの制御方法は、このような課題に鑑み、グループ宛先情報の登録画面を表示した状態で所定の指示を受け付けたことに応じて、画像データを入力し、画像データから宛先情報を取得し、取得された宛先情報を記憶されたアドレス帳にグループ宛先情報として登録することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、複数の宛先情報を含むグループ宛先情報を登録することが可能なアドレス帳を記憶する記憶手段と、表示手段と、を有する情報処理システムの制御方法であって、画像データを入力し、前記画像データから宛先情報を取得する入力及び取得工程と、前記入力及び取得工程で取得された宛先情報を編集可能な画面を前記表示手段に表示させる表示制御工程と、前記画面に表示されている宛先情報を編集する編集工程と、前記入力及び取得工程で取得された宛先情報または前記編集工程で編集された宛先情報を、前記記憶手段によって記憶されたアドレス帳にグループ宛先情報として登録する登録工程と、を有し、前記表示手段にグループ宛先情報の登録画面が表示された状態で所定の指示を受け付けたことに基づいて、前記入力及び取得工程と前記表示制御工程を実行することを特徴とする。

30

【発明の効果】

【0008】

本発明によれば、グループ宛先情報の登録画面を表示した状態で所定の指示を受け付けたことに応じて、画像データを入力し、画像データから宛先情報を取得し、取得された宛先情報を記憶されたアドレス帳にグループ宛先情報として登録することが可能となる。

40

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】ネットワーク構成を示すブロック図およびMFPの構成を示すブロック図

【図2】MFPのソフトウェア構成を示す図

【図3】アドレス帳に登録される宛先情報のデータ構造を示す図

【図4】MFPのメニュー画面

【図5】送信キーが選択された際に操作部に表示される送信画面

【図6】アドレス帳への登録画面

50

【図 7】グループ宛先情報の登録画面

【図 8】名刺読取キーが選択された際に操作部に表示される名刺読取画面

【図 9】宛先情報取得処理を行った後に操作部に表示される名刺読取結果画面

【図 10】選択された宛先情報が登録宛先として設定されたグループ宛先情報の登録画面および登録完了画面

【図 11】グループ宛先情報の登録フローチャート

【図 12】アドレス帳への登録画面およびグループ宛先情報の登録確認画面

【発明を実施するための形態】

【0010】

添付図面を参照して本発明の各実施例を詳しく説明する。なお、以下の実施例は特許請求の範囲に係る発明を限定するものではなく、また各実施例で説明されている特徴の組み合わせのすべてが本発明の解決手段に必須のものとは限らない。

10

【0011】

(実施例 1)

本発明の実施例 1 を図 1 ~ 図 11 を用いて詳細に説明する。

【0012】

図 1 (a) は、本発明におけるネットワーク構成を示すブロック図である。

【0013】

図 1 (a) は、送信元の一例として画像読取装置 (以下、MFP 101)、送信先の一例として画像読取装置 (以下、MFP 102)、画像読取装置 (以下、MFP 106) を図示している。

20

【0014】

図 1 (a) において、MFP 101、MFP 102、メールサーバ 103 および PC 104 は、ネットワーク 100 を介して通信可能に接続されている。

【0015】

さらに MFP 101 と MFP 106 は、公衆回線網 105 を介して通信可能に接続されている。

【0016】

MFP 101 は、読み取った画像データを含む電子メールを、メールサーバ 103 を介して MFP 102 または PC 104 に送信する。

30

【0017】

メールサーバ 103 は、MFP 101 から受信した電子メールを MFP 102 が受信する為の電子メールとしてストレージ (不図示) に設けたメールボックスに格納する。

【0018】

MFP 102 は、設定された電子メールの受信アカウントを用いて、MFP 101 によって送信された電子メールをメールサーバ 103 のメールボックスから受信する。

【0019】

PC 104 は、設定された電子メールの受信アカウントを用いて、MFP 101 によって送信された電子メールをメールサーバ 103 のメールボックスから受信する。

40

【0020】

MFP 106 は、MFP 101 からファックス番号を用いて送信されたファクシミリを受信する。

【0021】

なお、図 1 (a) においてネットワーク 100 は、ローカルネットワークとして記述されている。しかし、例えば、インターネットや、データ送信可能なネットワーク構成なら無線でアクセスポイント (不図示) に接続される構成など、すべてのネットワークを有効な通信手段として用いることが可能である。

【0022】

次に図 1 (b) では、本実施例における MFP 101 の構成を示すブロック図を説明する。CPU 111 を含む制御部 110 は、MFP 101 の全体の動作を制御する。CPU

50

１１１は、ＲＯＭ１１２またはストレージ１１４に記憶された制御プログラムを読み出して、例えば変換制御や送信制御などの各種制御を行う。

【００２３】

ＲＯＭ１１２は、ＣＰＵ１１１で実行可能な制御プログラムを格納する。また、ＲＯＭ１１２は、ブートプログラムやフォントデータなども格納する。ＲＡＭ１１３は、ＣＰＵ１１１の主記憶メモリであり、ワークエリア、ＲＯＭ１１２およびストレージ１１４に格納された各種制御プログラムを展開するための一時記憶領域として用いられる。ストレージ１１４は、画像データ、印刷データ、各種プログラム、および各種設定情報を記憶する。本実施例はストレージ１１４としてフラッシュメモリを想定しているが、ＳＳＤやＨＤＤなどの補助記憶装置を用いてもよい。

10

【００２４】

操作部Ｉ／Ｆ１１５は、操作部１１６と制御部１１０を接続する。操作部１１６は、ユーザに情報を表示（表示部）したり、ユーザからの入力を検出したりする。ユーザから検出した入力は、操作部Ｉ／Ｆ１１５を介してＣＰＵ１１１に通知される。そして、ＣＰＵ１１１は通知された入力に基づく制御を行う。

【００２５】

読取部Ｉ／Ｆ１１７は、読取部１１８と制御部１１０を接続する。読取部１１８は、原稿上の画像を読み取り、画像データを生成する画像生成手段である。ＣＰＵ１１１は、読取部１１８によって生成された画像データを、通信部Ｉ／Ｆ１２３を介して外部装置に送信する制御を行う。

20

【００２６】

または、ＣＰＵ１１１は、読取部Ｉ／Ｆ１１７および印刷部Ｉ／Ｆ１１９を介して印刷部１２０に画像データを入力させ、記録紙上に入力された画像データに基づいて印刷部１２０に印刷させる制御を行ってもよい。さらに、ＣＰＵ１１１は、読取部１１８によって生成された画像データを読取部Ｉ／Ｆを介してストレージ１１４に保存させる制御を行ってもよい。

【００２７】

印刷部Ｉ／Ｆ１１９は、印刷部１２０と制御部１１０を接続する。ＣＰＵ１１１は、印刷部Ｉ／Ｆ１１９を介して印刷対象の画像データを印刷部１２０に入力する制御を行う。印刷部１２０は、給紙カセットから給送された記録紙上に画像を印刷する。

30

【００２８】

通信部Ｉ／Ｆ１２３は、制御部１１０とネットワーク１００を接続する。ＣＰＵ１１１は、通信部Ｉ／Ｆ１２３を介して、外部装置に画像データやＭＦＰ１０１の内部の各種情報を送信させる制御を行い、ネットワーク１００上の外部装置から印刷データを受信させる制御を行ってもよい。

【００２９】

ネットワークを介した送受信方法としては、前述した電子メールを用いての送受信や、その他のプロトコル（例えば、ＦＴＰやＳＭＢ、ＷＥＢＤＡＶ等）を用いたファイル送信を行う方法がある。ただし、本実施例はこれらの方法に限られない。

【００３０】

40

ＣＰＵ１１１は、ファックス部Ｉ／Ｆ１２１によりファックス通信部１２２を制御することでＭＦＰ１０１を公衆回線網１０５に接続することが可能である。ファックス部Ｉ／Ｆ１２１は、ファックス通信部１２２を制御する為のＩ／Ｆである。ＣＰＵ１１１は、ファックス部Ｉ／Ｆ１２１を介してファクシミリ通信用のモデム、ＮＣＵを制御することで公衆回線網への接続、ファクシミリ通信プロトコルの制御などを行う。

【００３１】

なお、本実施例のＭＦＰ１０１は、１つのＣＰＵ１１１が１つのメモリ（ＲＡＭ１１３）を用いて後述するフローチャートに示す各処理を実行するものとするが、本構成に限られない。例えば複数のＣＰＵ、ＲＡＭ、ＲＯＭ、およびストレージを協働させて後述するフローチャートに示す各処理が行われてもよい。また、ＡＳＩＣやＦＰＧＡ等のハードウ

50

エア回路を用いて一部の処理が行われてもよい。

【 0 0 3 2 】

次に、図 2 では、本実施例におけるソフトウェア構成を説明する。図 2 は、M F P 1 0 1 のソフトウェア構成と、ソフトウェアが管理するデータ領域を示す。図 2 では、一部のソフトウェアについての説明を省略する。

【 0 0 3 3 】

アドレス帳 2 0 3、ワンタッチ 2 0 4、及びユーザアカウント 2 0 7 はソフトウェアが R A M 1 1 3 やストレージ 1 1 4 に記録して管理するデータのデータ領域を示す。

【 0 0 3 4 】

ユーザアカウント 2 0 7 には各ユーザアカウントに権限設定や電子メールアドレスなどのデータが格納されている。

10

【 0 0 3 5 】

アドレス帳 2 0 3 は、複数の宛先表 2 1 0 と、一つのワンタッチ 2 0 4 とを含んで構成される。アドレス帳 2 0 3 からは、宛先表 2 1 0 に保存されている宛先情報、及びワンタッチ 2 0 4 に保存されている宛先情報を参照することが可能である。ワンタッチ操作からはワンタッチ 2 0 4 に保存されている宛先情報のみが参照可能である。なお、ここで、ワンタッチ操作とは、M F P 1 0 2 に設けられた操作キーの 1 つを操作することにより、当該操作キーに紐づけられた所定の宛先情報を選択する操作をいう。

【 0 0 3 6 】

グループ宛先情報 2 1 6 は、同一宛先表内の複数の宛先情報を 1 つのグループとして登録した宛先情報である。例えば、A、B、C という宛先情報を 1 つのグループにした D がグループ宛先情報であり、このグループ宛先情報を 1 つの宛先情報として宛先表 1 に登録する。

20

【 0 0 3 7 】

グループ宛先情報を送信宛先に設定すれば、グループ宛先情報に含まれる宛先情報の宛先すべてに同報送信を行うことが可能となる。グループ宛先情報にはファクス宛先、電子メールアドレスを混在して登録することも可能である。

【 0 0 3 8 】

名刺読取ライブラリ 2 1 5 では、名刺をスキャンし、スキャン画像を O C R 処理し、認識した文字列から宛先情報を取得するなどにかかわる機能を提供するライブラリである。

30

【 0 0 3 9 】

なお、本実施例で宛先情報とは、関連した宛先、宛先の種類、名称等を宛先情報と呼ぶ。詳細は、図 3 を用いて説明する。

【 0 0 4 0 】

次に、図 3 では、宛先表 2 1 0 及びワンタッチ 2 0 4 に登録される宛先情報の詳細を説明する。図 3 では、一部の登録項目の説明を省略する。

【 0 0 4 1 】

表 3 0 0 は、宛先表 2 1 0 に登録されるファックス宛先情報の構造を示す。宛先 I D 3 0 4 は、宛先表 (1 ~ n) に登録された各宛先情報の管理番号である。名称 3 0 1 は、ユーザが宛先を識別するために付ける登録名である。登録名は、人の名前や会社名などの任意の文字列の登録が可能である。宛先表番号 3 0 2 は、どの宛先表 (1 ~ n) に登録されている宛先情報かを示す。ファックス番号 3 0 3 は、ファクシミリの番号を示す宛先であり、名称 3 0 1 および宛先 I D 3 0 4 に関連付けて表 3 0 0 に登録されている。さらに、ファックス宛先情報 3 0 0 は、詳細情報を含むが、ここでは説明を省略する。

40

【 0 0 4 2 】

表 3 1 0 は、ワンタッチ 2 0 4 に登録されるファックス宛先情報の構造を示す。表 3 0 0 のファックス宛先情報と異なるのは宛先表番号 3 0 2 がなく、その代わりにワンタッチ名称 3 1 1 があるところである。ワンタッチ名称 3 1 1 はワンタッチに表示される際の表示名称である。その他の情報は、ファックス宛先情報 3 0 0 と同等であるため説明を省略する。

50

【 0 0 4 3 】

表 3 2 0 は、宛先表 2 1 0 に登録される電子メール宛先情報の構造を示す。宛先 I D 3 2 4、宛先表 (1 ~ n) に登録された各宛先情報の管理番号である。名称 3 2 1 は、ユーザが宛先情報を識別するために付ける登録名である。登録名は、人の名前や会社名などの任意の文字列の登録が可能である。宛先表番号 3 2 2 は、どの宛先表 (1 ~ n) に登録されている宛先かを示す。電子メールアドレス 3 2 3 は、指定したアドレスに画像データを送信するための宛先である。

【 0 0 4 4 】

表 3 3 0 は、ワンタッチ 2 0 4 に登録される電子メール宛先情報の構造を示す。表 3 2 0 の電子メール宛先情報と異なるのは宛先表番号 3 2 2 がなく、その代わりにワンタッチ名称 3 3 1 があるところである。

10

【 0 0 4 5 】

次に表 3 4 0 は、宛先表 2 1 0 に登録される所定の宛先情報がグループとして設定され、名前が付けられて 1 つの宛先情報として登録されるグループ宛先情報である。グループ宛先 I D 3 4 4 は、宛先表 (1 ~ n) に登録されたグループ宛先情報の管理番号である。名称 3 4 1 は、ユーザがグループを識別するために付ける登録名である。登録名は、人の名前や会社名などの任意の文字列の登録が可能である。宛先表番号 3 4 2 は、本グループ宛先情報がどの宛先表 (1 ~ n) に登録されているグループ宛先情報かを示す。

【 0 0 4 6 】

宛先 I D リスト 3 4 3 は、一つのグループ宛先 I D 3 4 4 に対して、複数の宛先 I D (例えば宛先 I D 3 0 4、3 2 4) が関連する宛先情報として紐付けられている。つまり、グループ宛先 I D 3 4 4 によって、複数の宛先情報 (宛先 I D) を関連する宛先情報として呼び出すことが可能となる。

20

【 0 0 4 7 】

表 3 5 0 は、ワンタッチ 2 0 4 に登録されるグループ宛先情報の構造を示す。表 3 4 0 のグループ宛先情報と異なるのは宛先表番号 3 4 2 がなく、その代わりにワンタッチ名称 3 5 1 があるところである。

【 0 0 4 8 】

次に図 4 では、M F P 1 0 1 のメニュー画面 4 0 0 を説明する。図 4 (a) に示すメニュー画面 4 0 0 には、コピーキー 4 0 1、ファックスキー 4 0 3、送信キー 4 0 2 が表示される。

30

【 0 0 4 9 】

コピーキー 4 0 1 は、選択されることでコピー機能を利用することが可能となるキーである。ファックスキー 4 0 3 は、選択されることで送信プロトコルとしてファックスを利用することが可能となるキーである (ファックス機能)。ファックス機能では、送信宛先としてファックス番号が設定可能である。送信キー 4 0 2 は、選択されることで複数の送信プロトコルを送信宛先として設定することが可能となるキーである (送信機能)。送信機能では、送信宛先として、例えば電子メールとファックス番号が設定可能である。

【 0 0 5 0 】

なお、図 4 (a) では、例としてコピーキー 4 0 1、ファックスキー 4 0 3、送信キー 4 0 2 を示したが、そのほかの機能を利用することが可能なキーや設定キー等を表示してもよい。例えば、図 4 (b) のようにアドレス帳キー 4 0 4 を表示し、アドレス帳キー 4 0 4 が選択されることで、新規アドレスの登録や、送信先の設定を行ってもよい。なお、アドレス帳キー 4 0 4 は、後述のアドレス帳キー 5 0 1 と機能が同じである。

40

【 0 0 5 1 】

次に図 5 では、図 4 で示した送信キー 4 0 2 が選択された際に操作部 1 1 6 に表示される送信画面 5 0 0 を説明する。

【 0 0 5 2 】

図 5 に示す送信画面 5 0 0 には、アドレス帳キー 5 0 1、ワンタッチキー 5 0 2、新規入力キー 5 0 3、名刺読取キー 5 0 4、送信情報設定エリア 5 0 6 が配されている。

50

【 0 0 5 3 】

新規入力キー 5 0 3 は、選択されることで宛先情報の新規入力画面が開くキーである。送信情報設定エリア 5 0 6 は、送信情報設定エリア 5 0 6 に配された各情報を示し、送信情報設定エリア 5 0 6 が選択されることで、送信する画像データのカラーモードや解像度、原稿サイズ、ファイル形式などを指定するエリアである。

【 0 0 5 4 】

名刺読取キー 5 0 4 は、選択されることで後述の図 8 に示す名刺読取画面 8 0 0 が開くキーである（名刺読取機能）。アドレス帳キー 5 0 1 は、選択されることで、図 6（a）（b）に示すアドレス帳（アドレス帳機能）が開くキーである。ワンタッチキー 5 0 2 は、選択されることで、図 6（b）に示すワンタッチアドレス帳（ワンタッチ機能）が開くキーである。

10

【 0 0 5 5 】

次に、図 6 では、M F P 1 0 1 の宛先情報の登録画面 6 0 0 を説明する。

【 0 0 5 6 】

図 6 に示す登録画面 6 0 0 は、図 5 のアドレス帳キー 5 0 1 が選択されることで開く画面である。ここでは、図 6 において登録画面 6 0 0 に表示されている後述の新規宛先情報の登録キー 6 0 1 が選択された状態を示している。

【 0 0 5 7 】

表示エリア 6 0 6 には、すでに登録されている宛先情報が表示される。新規宛先情報の登録キー 6 0 1 は、新規宛先情報を登録するためのキーである。新規宛先情報の登録キー 6 0 1 が選択されると、選択画面 6 0 2 が表示される。選択画面 6 0 2 には、電子メール宛先情報の登録キー 6 0 3、ファックス宛先情報の登録キー 6 0 4、グループ宛先情報の登録キー 6 0 7 等の登録する宛先情報の種類または登録の仕方を選択するキーが表示される。

20

【 0 0 5 8 】

登録キー 6 0 3 は、電子メール宛先情報を登録するためのキーである。登録キー 6 0 4 は、ファックス宛先情報を登録するためのキーである。登録キー 6 0 7 は、複数の宛先情報を含むグループ宛先情報を登録するためのキーである。これにより、例えば関連付けて呼び出すことを可能とするグループを作成し、グループ宛先情報として登録するためのキーである。登録キー 6 0 7 が選択されると、図 7 に示すグループ宛先情報の登録画面 7 0 0 が表示される。

30

【 0 0 5 9 】

また、図 5 において、ワンタッチキー 5 0 2 が選択された場合には、図 6（b）が表示される。図 6（b）では、ユーザが所定の登録番号を選択することで、該登録番号に宛先を登録することが可能になる。ここでは、例として、番号 0 0 1 に山田一郎がすでに登録されており、且つ、番号 0 0 2 が宛先情報の登録先として選択されている状態を示している。登録／編集キー 6 1 1 は、新規宛先情報の登録キー 6 0 1 に対応したキーであり、新規宛先情報の登録を行うキーである。

【 0 0 6 0 】

図 7 では、図 6 の登録キー 6 0 7 が選択された時に表示されるグループ宛先情報の登録画面 7 0 0 について説明する。

40

【 0 0 6 1 】

登録画面 7 0 0 は、グループ宛先情報の名称編集キー 7 0 1、宛先表選択キー 7 0 2、グループ表示部 7 0 3、アドレス帳キー 7 0 4、名刺読取キー 7 0 5、キャンセルキー 7 0 7、OK キー 7 0 8、名称表示部 7 0 9、宛先表表示部 7 1 0 が表示される。

【 0 0 6 2 】

グループ名称の編集キー 7 0 1 は、選択されると名称表示部 7 0 9 に名称を入力及び編集することが可能になる。

【 0 0 6 3 】

宛先表選択キー 7 0 2 は、選択されるとグループ宛先情報を登録する宛先表を選択する

50

ことが可能となる。例えば、グループ名称：山田工務店のグループ作成した際に宛先表 1 に登録することが可能となる。

【 0 0 6 4 】

グループ表示部 7 0 3 は、名称表示部 7 0 9 のグループに属する宛先情報、宛先の種類、登録の名前を一覧表示する領域である。宛先の種類とは、例えば電子メール、ファックス、電話番号などを指す。

【 0 0 6 5 】

アドレス帳キー 7 0 4 は、すでにアドレス帳に登録済みの宛先情報を、グループ宛先情報に（グループ表示部 7 0 3 の宛先情報の一覧に）追加するためのキーである。

【 0 0 6 6 】

名刺読取キー 7 0 5 は、読取部 1 1 8 によって名刺を読み取り、取得した宛先情報をグループ宛先情報として登録するためのキーである。名刺読取キー 7 0 5 が選択されると、図 8 に示す名刺読取画面 8 0 0 が表示される。

【 0 0 6 7 】

OK キー 7 0 8 は、選択されることでグループ名称、グループ宛先情報として関連付けて登録する宛先情報、グループ宛先を登録する宛先表を確定する。

【 0 0 6 8 】

キャンセルキー 7 0 7 は、選択されることでグループ宛先の登録をキャンセルする。

【 0 0 6 9 】

なお、ここでは新規のグループ宛先情報をアドレス帳に登録する構成を示したが、予め登録されたグループ宛先情報に、グループ表示部 7 0 3 に表示された宛先情報を追加する構成であってもよい。その場合には、グループ名称の編集キーを選択した際に、名称の変更だけでなく、予めアドレス帳に登録されたグループ宛先情報を選択できるようにしてもよい。

【 0 0 7 0 】

次に図 8 (a)、図 8 (b) では、図 7 に示した名刺読取キー 7 0 5 が選択された際に操作部 1 1 6 に表示される名刺読取画面 8 0 0 を説明する。

【 0 0 7 1 】

図 8 (a) の名刺読取画面 8 0 0 には、メッセージ 8 0 1 と閉じるキー 8 0 2 が表示される。閉じるキー 8 0 2 は、選択されると名刺読取画面 8 0 0 を閉じ、名刺読取を終了するキーである。メッセージ 8 0 1 は、読取部 1 1 8 における名刺の読み取り開始を促すメッセージである。

【 0 0 7 2 】

図 8 において、ユーザがメッセージに従い、M F P 1 0 1 において名刺の読み取りを開始すると、名刺読取画面 8 0 0 は、図 8 (b) に示す名刺読取画面 8 1 0 に遷移する。名刺読取画面 8 1 0 では、名刺の読み取りを行っている旨のメッセージ 8 0 3 を表示する。

【 0 0 7 3 】

ここでは、名刺の読み取り処理として、読取部 1 1 8 が M F P 1 0 1 の原稿台に載置された複数の名刺を 1 回で読み取る。そして、C P U 1 1 1 は、読み取った画像データに対して各名刺に対応した領域を認識し、各名刺の画像データの切り出しを行う。そして、各名刺の画像データに O C R 処理（文字認識処理）を行う。

【 0 0 7 4 】

さらに C P U 1 1 1 は、O C R 処理結果から宛先情報（ファックス番号や電子メールアドレス等の宛先、名称等）を取得し、取得した宛先情報から、ファックス宛先であるか、電子メールアドレスであるか、名称であるか等を判定する（宛先情報取得処理）。

【 0 0 7 5 】

具体的には、例えば、名称は、名刺の中で一番大きなフォントで表示されることが多いため、フォントサイズから名称であることを判断する。さらに文字数なども合わせて判断材料にして判定してもよい。例えば、ファックス番号を取得する場合に C P U 1 1 1 は、O C R 処理結果から " F A X " や " ファクス " 等の文字列と番号の数字列を含むエリアを取得

10

20

30

40

50

する。そして、CPU111は、取得したエリア中の数字をファックス番号とみなして宛先情報とする。なお、“FAX”や“ファクス”等の文字列に隣接する数字列のみを抽出してもよい。

【0076】

例えば、電子メールアドレスを取得する場合にCPU111は、OCR処理結果から“E-mail”や“メールアドレス”に隣接する文字列、または、“@”を含む文字列などの条件で電子メールアドレス部分を取得する。CPU111は、取得したエリア中の文字列を電子メールアドレスとみなして宛先情報とする。また、例えば、電話番号を取得する場合にCPU111は、OCR処理結果から“TEL”や“電話番号”等の文字列と番号の数字列を含むエリアを取得する。そして、CPU111は、取得したエリア中の数字をファックス番号とみなして宛先情報を取得する。

10

【0077】

なお、“TEL”や“電話番号”等の文字列に隣接する数字列のみを抽出してもよい。なお、ここでは、原稿台に載置した名刺を読み取る構成を示したが、これに限られない。例えば、ADF(Auto Document Feeder)であってもよい。

【0078】

複数の名刺の読み取りとOCR処理が終了すると、図9に示す名刺読取結果画面900が表示される。

【0079】

次に図9を参照して、宛先情報取得処理を行った後に操作部116に表示される名刺読取結果画面900を説明する。図9(a)は、最初の名刺読取結果画面を示し、図9(b)では、最後の名刺読取結果画面を示す。

20

【0080】

図9の名刺読取結果画面900には、名刺画面901、名称拡大画像である名称902、ファックス番号を拡大した画像であるファックス番号906、電子メールアドレスを拡大した画像である電子メールアドレス910が表示される。また名刺読取結果画面900には、OCR処理結果から取得した、名称の文字情報を表示する文字情報エリア903、ファックス番号の文字情報を表示する文字情報エリア907、電子メールアドレスの文字情報を表示する文字情報エリア911も表示される。

【0081】

30

また、名刺読取結果画面900には、文字情報エリア903、907、911を編集する編集キー904、908、912が表示される。編集キー904、908、912が選択されると、CPU111は、文字情報を編集するために不図示のソフトキーボードを表示する。ただし、ファックス番号の文字情報を表示する文字情報エリア907については、操作部116に不図示のテンキーが配されている場合には、ソフトキーボードではなく、テンキーで編集を行ってもよい。

【0082】

さらに、名刺読取結果画面900には、チェックボックス905、チェックボックス909が表示される。各チェックボックスが選択されることでCPU111が、該当する宛先の選択を受付手段として受け付ける。チェックボックス905は、ファックス番号をグループ宛先として登録するか否かをユーザが選択するチェックボックスであり、チェックボックス909は、電子メールアドレスをグループ宛先として設定するか否かの選択を受け付けるチェックボックスである。

40

【0083】

ここでは、チェックボックス905とチェックボックス909の一方のみを選択してもよいし、両方選択してもよい。

【0084】

なお、操作部116にチェックボックスを表示することで選択を受け付けたが、この構成に限らない。

【0085】

50

テキスト 9 1 6 は、複数枚の名刺を読取部 1 1 8 が読み取った場合に表示される。ここでは、例として 3 枚の名刺の読み取りを行い、OCR 処理をした構成を示している。テキスト 9 1 6 には、1 枚目の名刺の名刺読取結果を名刺画面 9 0 1 に表示し、残り 2 枚の名刺の表示が残っていることを通知している。また、テキスト 9 1 7 では、3 枚の名刺のうち何枚目の名刺の名刺読取結果を表示しているかを示している。

【 0 0 8 6 】

さらに、名刺読取結果画面 9 0 0 には、キャンセルキー 9 1 3、次へキー 9 1 5 が表示される。キャンセルキー 9 1 3 は、グループ宛先登録を途中で中断して遷移元の画面に戻るためのキーであり、本実施例では、キャンセルキー 9 1 3 が選択されると、CPU 1 1 1 は、操作部 1 1 6 の表示を送信画面 5 0 0 に戻す。なお、ここでは、CPU 1 1 1 は、操作部 1 1 6 の表示を送信画面 5 0 0 に戻すとしたが、メニュー画面 4 0 0 に戻してもよい。

10

【 0 0 8 7 】

戻るキー 9 1 4 は、前の名刺読取結果画面 9 0 0 に戻るキーである。図 9 (a) は、最初の名刺読取結果画面であることから、戻るキー 9 1 4 を表示しなくてもよい。または、最初の名刺読取結果画面においては、キャンセルキー 9 1 3 と同等の機能を持たせてもよい。

【 0 0 8 8 】

次へキー 9 1 5 は、ユーザが読取結果の確認および修正と、登録宛先の選択が完了すると選択する。そして、次へキー 9 1 5 が選択されると、CPU 1 1 1 は、次の名刺の名刺読取結果画面 9 0 0 に遷移する。なお、すべてのチェックボックスを選択しないで次へキー 9 1 5 を選択することで、表示されている名刺に記載された宛先のグループ宛先への登録を行わず、次の名刺の表示に進めてもよいし、別途スキップキーを表示してもよい。

20

【 0 0 8 9 】

図 9 (b) は、最後の名刺読取結果画面 9 2 0 である。ここでは例として、テキスト 9 1 9 では、3 枚目の名刺の名刺読取結果を名刺画面 9 0 1 に表示し、残り 0 枚の名刺の表示が残っていることを通知している。また、テキスト 9 1 8 では、3 枚の名刺のうち 3 枚目の名刺の名刺読取結果を表示している旨を示している。

【 0 0 9 0 】

最後の名刺読取結果画面 9 2 0 において、次へキー 9 1 5 が選択されると、図 1 0 (a) の登録画面 7 0 0 に遷移する。

30

【 0 0 9 1 】

なお、図 9 では不図示であるが、電話番号を表示し、電話番号を登録するか否かのチェックボックス、電話番号を変種する編集キーを配してもよい。

【 0 0 9 2 】

図 1 0 (a) のグループ宛先情報の登録画面 7 0 0 に示すように、図 9 の名刺読取結果画面 9 0 0 において、選択されたチェックボックスに対応する宛先を含む宛先情報が、グループ宛先情報として設定される。例えば、3 枚の名刺に対応した名刺読取結果画面 9 0 0 の各々でチェックボックス 9 0 9 が選択された状態で、次へキー 9 1 5 が選択されると、図 1 0 のグループ表示部 7 0 3 には、3 つの宛先情報が設定される。

40

【 0 0 9 3 】

図 1 0 (a) において、所定の宛先表に OK キー 7 0 8 が選択されることでグループ名称、複数の宛先情報をグループ宛先情報として登録する。このとき、図 1 0 (b) に示すようなグループ宛先登録を完了した旨の画面 1 0 0 0 を出してもよい。

【 0 0 9 4 】

なお、図 9 および図 1 0 では、グループ宛先情報として電子メール宛先情報のみを登録する構成を示したが、ファックス宛先情報のみを登録する構成でもよいし、グループ宛先としてファックス宛先情報、電子メール宛先情報を混在して登録する構成でもよい。そして、グループ宛先情報を送信宛先に指定することで、グループに属する宛先すべてに同報送信を行うことが可能となる。

50

【 0 0 9 5 】

次に図 1 1 では、図 1 ~ 図 1 0 で説明した本実施例の M F P のグループ宛先登録のフローチャートを説明する。図 1 1 のフローチャートに係る処理を実行するためのプログラムは、図 1 の R O M 1 1 2 またはストレージ 1 1 4 に格納されており、R A M 1 1 3 に読み出され C P U 1 1 1 によって実行される。

【 0 0 9 6 】

グループ宛先登録のフローチャートは、図 6 (a) および図 6 (b) の登録キー 6 0 7 が選択されることによって開始する。

【 0 0 9 7 】

ステップ S 2 0 において、C P U 1 1 1 は操作部 1 1 6 に登録画面 7 0 0 を表示させる表示処理を行わせる。ステップ S 2 0 を終わると、ステップ S 2 1 に遷移する。

10

【 0 0 9 8 】

ステップ S 2 1 において、ユーザによって画面 1 0 が選択されることで、C P U 1 1 1 はグループ宛先情報の名称の入力 / 編集を受け付ける。さらに、ユーザによって宛先表選択キー 7 0 2 が選択されることで、C P U 1 1 1 は、グループ宛先情報を登録する宛先表の選択を受け付ける。ステップ S 2 1 を終わると、ステップ S 2 2 に遷移する。

【 0 0 9 9 】

ステップ S 2 2 において、ユーザによって名刺読取キー 7 0 5 が選択されることで、C P U 1 1 1 は、名刺読取ライブラリ 2 1 5 を読み出し、操作部 1 1 6 に名刺読取画面を表示する。ステップ S 2 2 を終わると、ステップ S 2 3 に遷移する。

20

【 0 1 0 0 】

ステップ S 2 3 において、ユーザによって操作部 1 1 6 にある不図示のスタートキーが選択されることで、読取部 1 1 8 が原稿台に載置された複数の名刺の読み取りを開始する。そして、読取部 1 1 8 が名刺を読み取ることで複数生成した画像データをストレージ 1 1 4 に保存する。ステップ S 2 3 を終わるとステップ S 2 4 に遷移する。

【 0 1 0 1 】

ステップ S 2 4 において、C P U 1 1 1 は取得した画像データに対して画像濃淡情報などから画像データのエッジ検出を行い、各名刺の画像データを切り出す。これによって取得した複数の画像データをストレージ 1 1 4 に保存する。さらに、C P U 1 1 1 は、取得した名刺画像データの数 (名刺枚数) をカウントし、R A M 1 1 3 に保存する。ステップ S 2 4 を終わると、ステップ S 2 5 に遷移する。

30

【 0 1 0 2 】

ステップ S 2 7 において、C P U 1 1 1 は、ステップ S 2 4 で取得した複数の名刺画像データの各々に対して O C R 処理を実行し、文字情報を取得し、取得した文字情報を R A M 1 1 3 に記憶する。さらに C P U 1 1 1 は、O C R 処理結果から文字情報 (ファックス番号や電子メールアドレス等の宛先情報、名称等) を取得し、取得した文字情報から、ファックス宛先であるか、電子メールアドレスであるか、名称であるか等を判定する (宛先情報取得処理) 。

【 0 1 0 3 】

なお、ここでは、原稿台に載置した複数枚の名刺を 1 度に読み取る構成を示したが、これに限られない。例えば、A D F (A u t o D o c u m e n t F e e d e r) であってもよい。その場合には、ステップ S 2 3 において、読取部 1 1 8 は、複数の名刺の各々に対して画像データを生成する。そして次にステップ S 2 7 を行い、C P U 1 1 1 が、生成した複数の画像データに対して O C R 処理を行う。

40

【 0 1 0 4 】

次にステップ S 4 0 において、C P U 1 1 1 は、変数 N を 1 で初期化する。そしてステップ S 4 1 に示すように変数 N が、読取部 1 1 8 で読み取られた名刺数を超えるまで、ステップ S 4 1 ~ ステップ S 5 6 を繰り返し実行する (ループ処理) 。

【 0 1 0 5 】

ステップ S 4 2 において、C P U 1 1 1 は、ユーザによって操作部 1 1 6 に名刺読取結

50

果画面 900 を表示させる。

【0106】

ステップ S43 において、名刺読取結果画面 900 に表示された編集キー 904、908、912 のいずれかのキーが選択されたことを操作部 I/F115 が検出するとステップ S44 に遷移する。

【0107】

ステップ S44 において、CPU111 は、操作部 116 にソフトキーボードを表示してテキストの修正を可能にする。そして、ソフトキーボードで修正を受け付けると保持していたテキストを更新する。ステップ S44 を終える、または、ステップ S43 において、操作部 I/F115 が、編集キー 904、908、912 のいずれかのキーが選択されたことを検出しない場合にはステップ S45 に遷移する。

10

【0108】

ステップ S45 において、操作部 I/F115 が、戻るキー 914 またはキャンセルキー 913 の選択を検出した場合にはステップ S46 に遷移する。ステップ S46 において、操作部 I/F115 が戻るキー 914 の選択を検出した場合は、ステップ S47 に遷移する。ステップ S47 において、CPU111 は、変数 N を 1 つ減らし、ループ処理の先頭に戻る。

【0109】

操作部 I/F115 が、キャンセルキー 913 の選択を検出した場合には、ステップ S32 に進み、操作部 116 の表示をグループ宛先情報の登録画面 700 に戻す。操作部 I/F115 が、次へキー 915 の選択を検出することで、CPU111 は、宛先の登録指示を受け付けたものとして、ステップ S48 に遷移する。

20

【0110】

ステップ S48 において、CPU111 は、図 9 の名刺読取結果画面 900 のチェックボックス 905 が ON であるか否かを判定する。操作部 I/F115 によってチェックボックス 905 が OFF であることを検出された場合には、ステップ S52 に遷移する。

【0111】

操作部 I/F115 によってチェックボックス 905 が、ON であることを検出された場合には、ステップ S49 に遷移する。

【0112】

30

ステップ S49 において、CPU111 は、操作部 116 にファックス宛先情報の新規登録画面（不図示）を表示する。そして、ステップ S50 において、操作部 I/F115 が登録の指示を受け付けなかった場合には、ステップ S52 に遷移する。一方、操作部 I/F115 が登録の指示を受け付けた場合に CPU111 は、ステップ S51 において個人の登録としてファックスの宛先を含む宛先情報をアドレス帳 203 に登録する。そして、ステップ S51 からステップ S52 に遷移する。

【0113】

ステップ S52 において、CPU111 は、図 9 の名刺読取結果画面 900 のチェックボックス 909 が ON であるか否かを判定する。操作部 I/F115 によってチェックボックス 909 が OFF であることを検出された場合には、ステップ S56 に遷移する。

40

【0114】

操作部 I/F115 によってチェックボックス 909 が、ON であることを検出された場合には、ステップ S53 に遷移する。

【0115】

ステップ S53 において、CPU111 は、操作部 116 に電子メールの新規宛先情報の登録画面（不図示）を表示する。そして、ステップ S54 において、操作部 I/F115 が登録の指示を受け付けなかった場合には、ステップ S56 に遷移する。一方、操作部 I/F115 が登録の指示を受け付けた場合に CPU111 は、ステップ S55 において個人の電子メール宛先をアドレス帳 203 に登録する。そして、ステップ S55 からステップ S57 に遷移する。

50

【 0 1 1 6 】

ステップ S 5 7 において、変数 N がステップ S 4 1 の条件を満たしている場合には、ステップ S 3 3 に遷移する。変数 N がステップ S 4 1 の条件を満たしていない場合には、ステップ S 5 6 に遷移する。ステップ S 5 6 において、C P U 1 1 1 は、変数 N の値を 1 つ増やし、処理ループの先頭（ステップ S 4 1）に戻る。

【 0 1 1 7 】

ステップ S 3 3 では、C P U 1 1 1 は、図 1 0 に示すグループ宛先情報の登録画面 7 0 0 を操作部 1 1 6 に表示する。O K キー 7 0 8 が選択されるとステップ S 3 1 に遷移する。

【 0 1 1 8 】

ステップ S 3 1 において、C P U 1 1 1 は、図 9 の名刺読取結果画面 9 0 0 において、
選択されたチェックボックスに対応する宛先を含む宛先情報が、グループ宛先情報として
設定される。

10

【 0 1 1 9 】

なお、具体的には、複数回のループ処理におけるステップ S 5 1、ステップ S 5 5 でアドレス帳 2 0 3 に登録された宛先情報の I D のリストを図 3 に示すアドレス帳 2 0 3 のグループ宛先情報 3 4 0 における宛先 I D リスト 3 4 3 として記憶する。登録された宛先 I D リスト 3 4 3 への記憶は、ループ処理の各ステップ S 5 1、ステップ S 5 5 が行われるたびに宛先 I D が記憶されてもよいし、ループ処理を抜けてから記憶されてもよい。

【 0 1 2 0 】

ステップ S 3 2 において、C P U 1 1 1 は操作部 1 1 6 に遷移元画面である登録画面 6 0 0 を表示させる。ステップ S 3 2 を終わると、グループ宛先情報の登録処理が終了する。なお、ステップ S 4 6 において、戻るキー 9 1 4 が選択可能になるのは N が 2 以上の場合である。

20

【 0 1 2 1 】

本発明によれば、原稿を読み取ってアドレス帳に宛先情報の登録を行う際に、複数の宛先情報を含むグループ宛先情報を登録することが可能となる。これにより、ユーザの操作性が向上する。

【 0 1 2 2 】

なお、本実施例では、複数の宛先情報を取得するために、複数の名刺を読み取る構成を示したがこれに限られない。例えば、宛先情報を纏めたアドレス表や、所定の用紙に名称や宛先が記載されているもの等に対して、ステップ S 1 1 0 7 に示した情報取得処理を行うことで、複数の宛先を取得してもよい。

30

【 0 1 2 3 】

その場合であっても、図 5 において説明したように、まず O C R 処理結果から原稿情報（ファックス番号や電子メールアドレス等の宛先、名称等）を取得する。そして、C P U 1 1 1 は、取得した原稿情報から、ファックス宛先であるか、電子メールアドレスであるか、名称であるか等を判定し、複数の宛先情報を取得する。そして、複数の宛先情報を含むグループ宛先情報を登録する。

【 0 1 2 4 】

さらに、本実施例では、名刺に宛先（例えば電子メールアドレスやファックス）が 1 つ記載されている構成を示したが、複数の宛先が記載され、名刺読取結果画面において各宛先を選択可能にしてもよい。

40

【 0 1 2 5 】

（変形例）

本変形例は、実施例 1 とグループ宛先情報の登録画面を表示するまでの画面遷移が異なる。

【 0 1 2 6 】

図 1 2 (a) は、図 6 に示した登録画面 6 0 0 の変形例である。図 1 2 (a) において、C P U 1 1 1 は、新規宛先情報の登録キー 6 0 1 が選択されると、選択画面 6 2 を表示させる。選択画面 6 2 は、名刺読取キー 6 5 を含む画面である。名刺読取キー 6 5 が選択

50

されると、実施例 1 で説明した図 8 および図 9 の画面が表示される。

【 0 1 2 7 】

図 9 (b) の最後の名刺読取結果画面 9 0 0 において、次へキー 9 1 5 が選択されると、CPU 1 1 1 は、操作部 1 1 6 に図 1 2 (b) の確認画面 6 6 を表示する。確認画面 6 6 は、ユーザにグループ宛先情報の登録を行うかを確認する画面である。いいえキー 6 7 が選択されると、アドレス帳への登録が終了する。はいキー 6 8 が選択されると、図 1 0 のグループ宛先情報の登録画面 7 0 0 が表示される。

【 0 1 2 8 】

このような構成においても、実施例 1 と同様の効果を有する。

【 0 1 2 9 】

10

(その他の実施例)

以上、本発明の様々な実施例を示して説明したが、本発明の趣旨と範囲は、本明細書内の特定の説明に限定されるものではない。

【 0 1 3 0 】

本発明は、上述の実施例の 1 以上の機能を実現するプログラムを、ネットワーク又は記憶媒体を介してシステム又は装置に供給し、そのシステム又は装置のコンピュータにおける 1 つ以上のプロセッサがプログラムを読み出し実行する処理でも実現可能である。また、1 以上の機能を実現する回路 (例えば、ASIC) によっても実現可能である。

【 符号の説明 】

【 0 1 3 1 】

20

1 1 1 CPU

1 1 4 ストレージ

1 1 5 操作部 I / F

1 1 6 操作部

1 1 7 読取部 I / F

1 1 8 読取部

2 0 3 アドレス帳

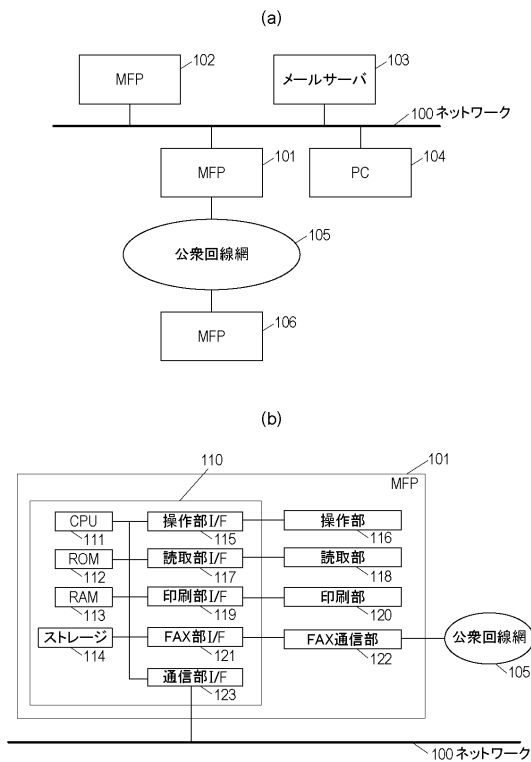
30

40

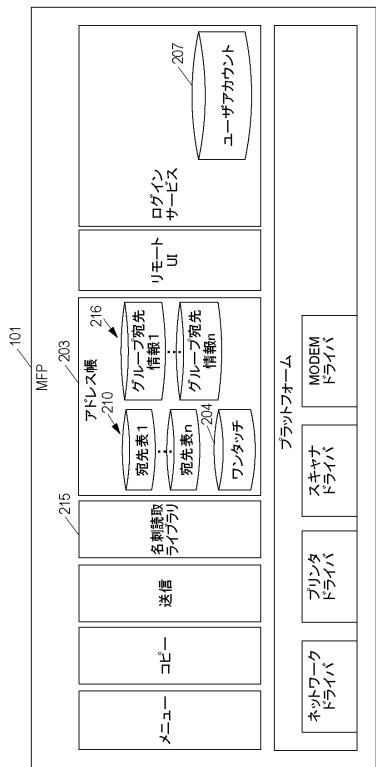
50

【図面】

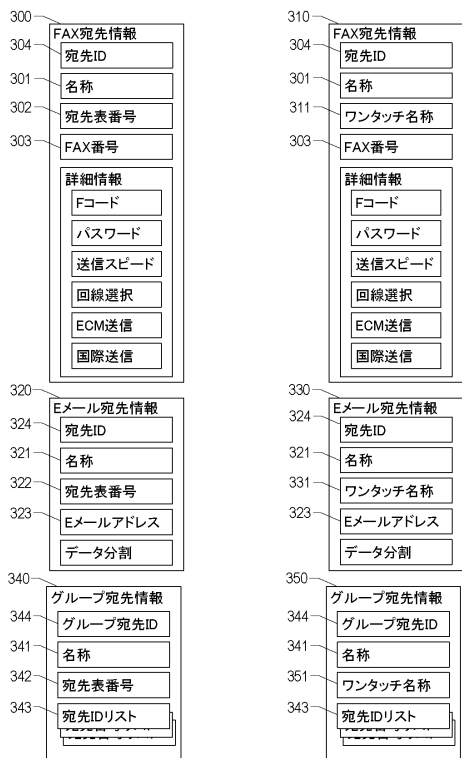
【図 1】



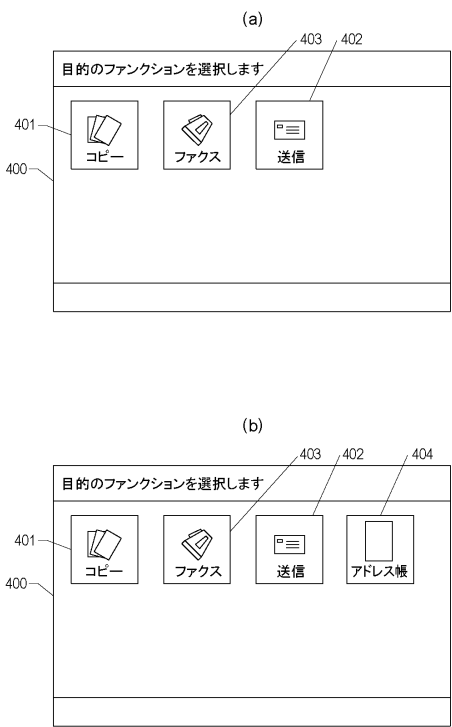
【図 2】



【図 3】



【図 4】



10

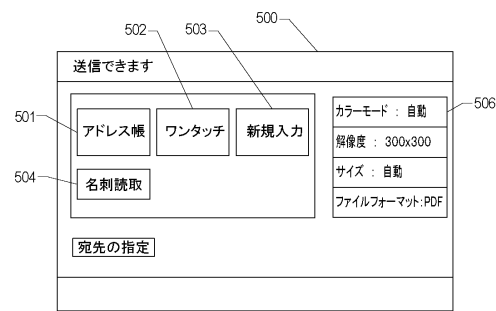
20

30

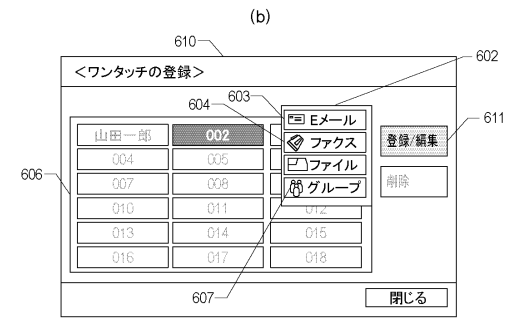
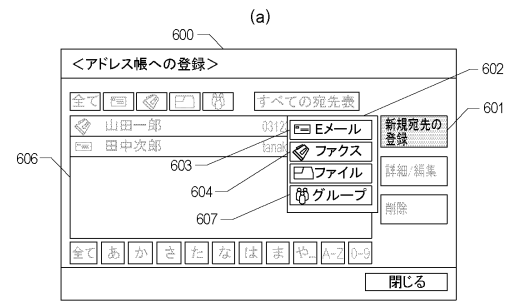
40

50

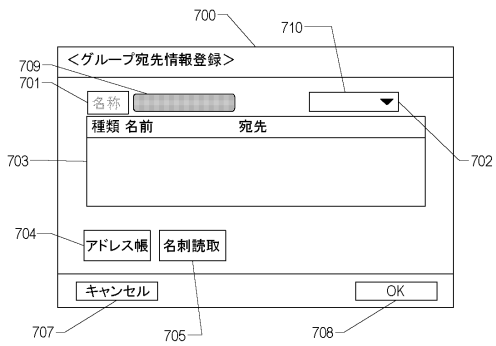
【図 5】



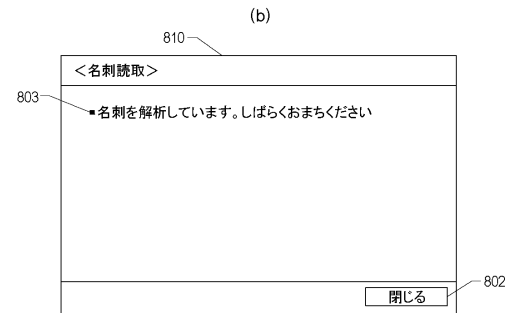
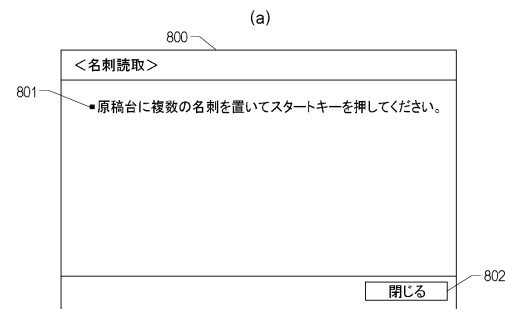
【図 6】



【図 7】



【図 8】



10

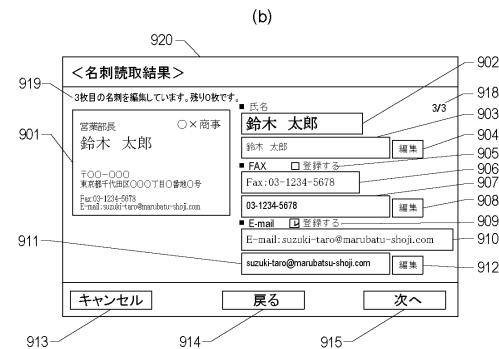
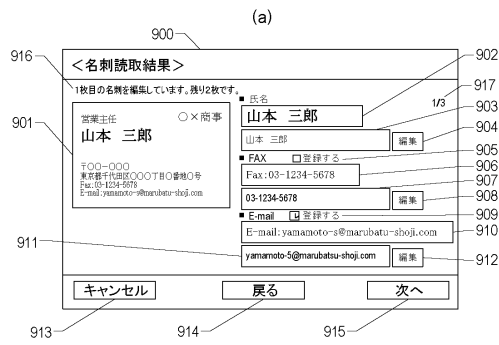
20

30

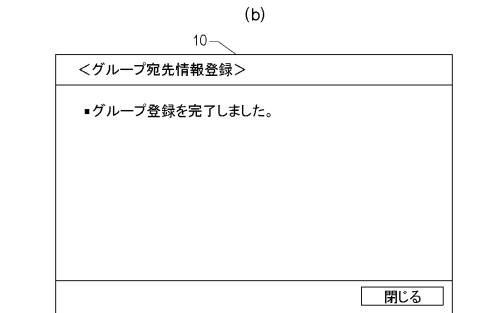
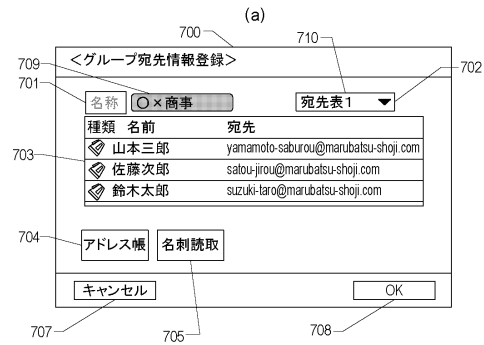
40

50

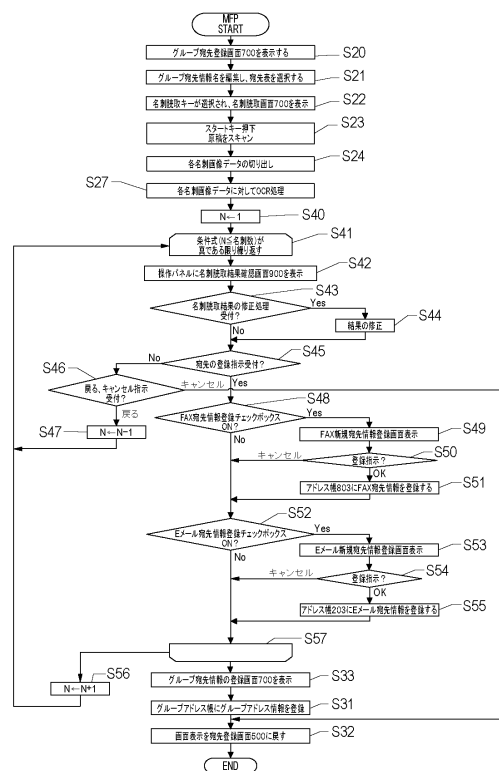
【図 9】



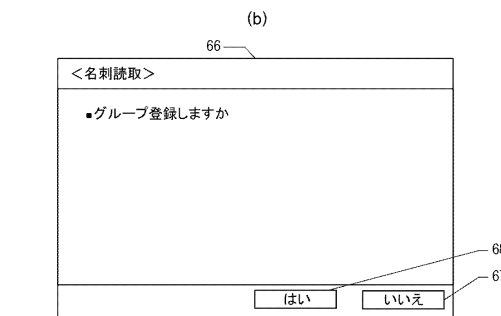
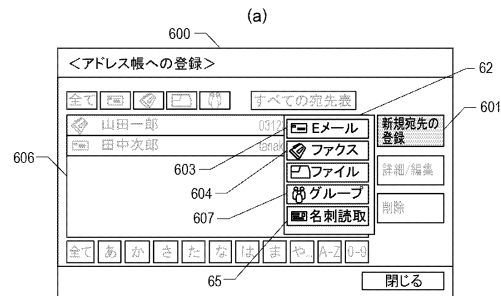
【図 10】



【図 11】



【図 12】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

キヤノン株式会社内

審査官 三沢 岳志

- (56)参考文献 特開 2 0 1 0 - 2 8 8 0 9 0 (J P , A)
特開 2 0 1 1 - 1 6 0 3 8 1 (J P , A)
特開 2 0 1 3 - 1 6 2 4 9 4 (J P , A)
特開 2 0 1 3 - 0 6 2 7 7 4 (J P , A)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
H 0 4 N 1 / 3 2
H 0 4 N 1 / 0 0